かあちゃんのおにぎり

根形小学校・五年　十川　武士

ぼくは、おにぎりが大好きです。おにぎりといっても、コンビニやスーパーで売っているもの、のりがついているも、具材も色んな種類があって、どれもおいしくて好きだけど、一番大好きなおにぎりは、かあちゃんが作ってくれるおにぎりです。同じおにぎりなのにどうしてかあちゃんのおにぎりは、こんなにおいしいのかなぁと、ずっと不思議に思っていました。

ぼくは、習字教室に通っています。習字教室の先生は、昔のお話を色々と教えてくれます。先日、先生が書いた作文を見せてくれました。そこには、先生が子どもの頃のお母さんとのおにぎりについてのエピソードが書かれていたのです。終戦後、先生の家族は、お父さんの実家である新がたで過ごしたそうです。戦後間もない時代で、食料も少なく、ご飯も満足に食べられない、がまんばかりの生

コクヨ　ケ−10　20×20

活をしていたある日、先生にお母さんが、
「土手に行って食べなさい。」
と葉っぱの包みを手渡してくれたそうです。急いで土手まで走り、包みをあけると、そこには大きなおにぎりが入っていて、夢中でおにぎりをほおばった時、なぜか体が軽くなり、生きる力を感じたそうです。

この作文を読んで、今までぎ問だった、どうしてかあちゃんの作ってくれるおにぎりがおいしいのか？大好きなのか？という事がわかったような気がしました。

ぼくも運動会や遠足、テニスの練習や試合の時に、かあちゃんのおにぎりを食べると、習字の先生が感じたような、がんばろう！というカがみなぎってきます。また、効外学習でクラスの仲間と協力し、はんごうすいはんをして、おにぎりを作った時は、とても楽しい気分でした。

習字の先生の子どもの頃の作文や自分が体験した事を考えると、おにぎりには人を元気

にしたり、笑顔にさせるすごい力があるんだと気付かされました。

子どもだった習字の先生と僕は、生きている時代も環境もちがうけれど、母からのおにぎりには、時代をこえて、同じ力を与えてくれているんだとも感じました。それは、自分の事を大切に思ってくれているぬくもりが込められた、特別なおにぎりだからこそだと思います。

かあちゃんが作ってくれるおにぎりは、ぼくに力をくれたり、笑顔にしてくれる、スーパーフードです。

コクヨ　ケ-10　20×20